

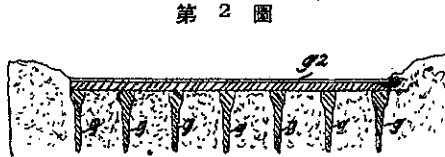
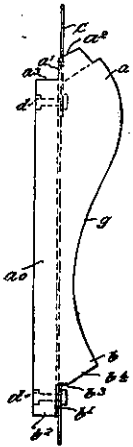
# 特許抄録

第21卷第1號 昭和10年1月

## 道路震動防止装置

(特許第 107 590 號, 優先權主張 3-5-18)  
(特許權者(發明者) アントン・シュナイデル氏)

第 1 圖 此の發明は、數個の楔形肋材 (a) (第 1 圖 参照) を道路表装の直下に於て縦方向に可動的に連結配置し、且つこれを 均一間隔を以て數列併行配列 (第 2 圖参照) したものである。



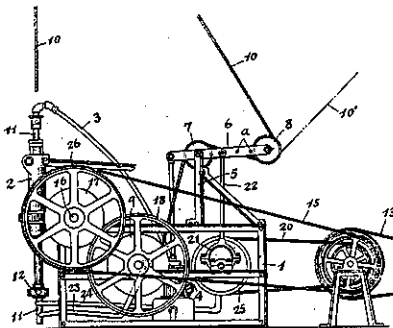
第 2 圖

## 多働掘整機

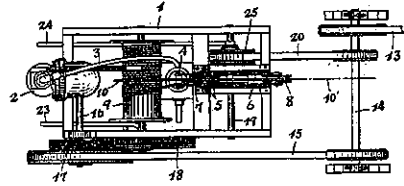
(特許第 107 732 號, 出願 8-11-27)  
(特許權者(發明者) 鹽田 岩 治氏)

此の發明は、一つの動力に依つて廻轉衝擊兩式の掘整及びポンプ作動の 3 者を行ひ得るゝと共に、廻轉衝擊兩式の各別掘整をも可能ならしめ、而も廻轉式掘整より衝擊式掘整への變換は即座に遂行し得るのみならず、ポンプ及び衝擊式掘整は隨時ポンプ作動用槓杆 (6) の手動に依りても行ひ得べくしたるものである (第 3 圖, 第 4 圖参照)。

第 3 圖



第 4 圖

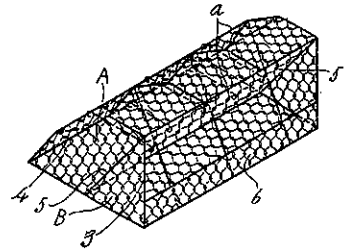


## 金網法留工の改良

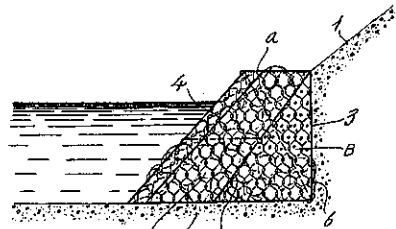
(特許第 107 878 號, 出願 9-4-9)  
(特許權者(發明者) 萩原俊一氏)

此の發明は、金網籠を中間金網壁 (5) に依つて前後の 2 區分に分ち、前方區分 (A) を石籠とし、後方部分 (B) を底部にのみ石を詰むる鎮定籠とし、堤防側後面の金網を一部省略して堤防又は護岸の土砂を充填せしめ、籠全體を堤防の土砂に依り把持し得べくしたるものである (第 5 圖, 第 6 圖参照)。

第 5 圖



第 6 圖

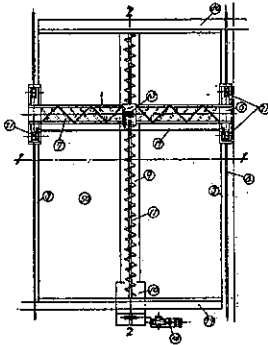


沈澱池に於ける沈澱物排出装置

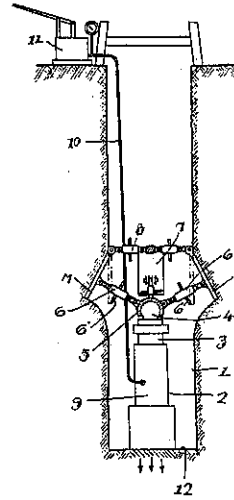
(特許第 107 981 號, 出願 7-11-4)  
 (特許權者 (發明者) 大塚 肇氏)

此の發明は、槽の長さの方向に凹溝 (9) を設け、搔寄部材には傾きを變換し得る搔寄羽根 (7) を設けて沈澱物を其の凹溝に向ひて槽の横方向に搔寄するやうにしたもので、かゝるが故に搔寄部材を殆ど一定の動力を以て運轉し得べく、又搔寄部材の始端への歸還動作の際にも、羽根の方向を變換して槽底に沿ひて移動せしむれば、往行程と同様に亦搔寄作業を営み得るものである。

第 7 圖



第 8 圖

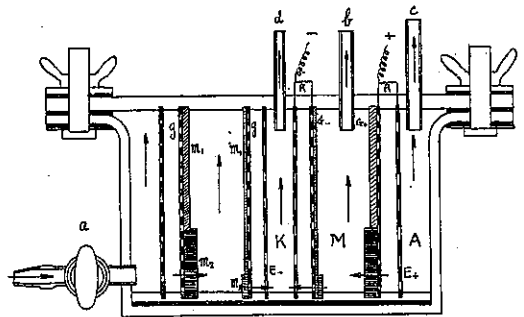


電 氣 淨 水 装 置

(特許第 108 106 號, 出願 8-10-19)  
 (發明者 駒形作次氏外 2 名 特許權者 逓信大臣)

此の發明は、僅少な電力と小規模の装置とを用ひて濾過能力の低下を防ぎ、悪質の用水を濾過して懸散物を除くと同時に鹽類を所要の程度に除去して、連続に多量の淨水を得んとするものであつて、第 9 圖に示す如く、電槽を滲透膜 (m<sub>2</sub>) と緻密なる電極遮蔽膜 (m<sub>1</sub>)

第 9 圖



セメント防水耐酸壁の築造法

(特許第 108 009 號, 出願 8-2-14)  
 (特許權者 (發明者) 阪口芳三郎氏)

此の發明は、セメントを砂利砂等と練り合はすに當り之に硅藻土又は硅酸白土を混加し、斯して得たるモルタル又はコンクリートを以て所要の壁面を構成し、然る後之に耐酸性金屬の鍍融せるものを壓縮空氣を以て吹きつけ、以て全壁面を該金屬膜を以て被覆せしむる方法である。

堅坑底部の押壓装置

(特許第 108 053 號, 出願 9-2-28)  
 (特許權者 (發明者) 木田保造氏)

此の發明は、堅坑の底部を靜かに押壓して、其の地形を固めんとするものであつて、第 8 圖に示す如く、水壓機 (2) と其のラム頭 (4) に設けたる球子と、之に嵌合する帽體 (5) と、其の一端を帽體に、他端を支持板 (7) に樞着せるターンバックルと、支持板の對向する上端を連繫するターンバックルとよりなるものである。

とを中室 (M) に於ける水の流れの方に順次接續して成る隔壁と、網狀或は多孔性板電極 (g) との組合せより成る特殊補助電極 (G<sub>+</sub>, G<sub>-</sub>)、或は該隔壁又は電極遮蔽膜 (m<sub>1</sub>) と該特殊補助電極各 1 個にて 3 部に分離しその兩側室に前記の特殊補助電極と同性の電極が相

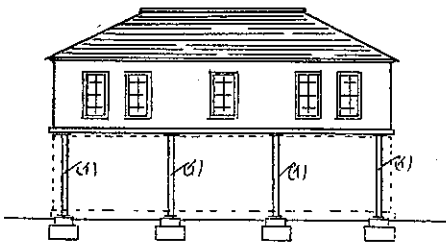
對峙する如く陰陽兩主電極 (E<sup>+</sup>, E<sup>-</sup>) を設け、而して補助電極の電源への接続は該極の電解を防止する如く適當に行ひ、原水の流入管を陽室 (A) 或は陰 (K) 陽兩室の一端に、淨水の流出管並に陰陽兩室の洗滌水の排出管を、夫々中室 (M) 陽室及び陰室の他の一端に設け、原水に壓力を有せしめて流入管に導き流出せしめ淨水の中室の流出管 (d) より取出すやうにしたものである。

### 耐震家屋構造

(特許第 108167 號、出願 8-5-4)  
(特許權者 (發明者) 眞島健三郎氏)

此の發明は、1 家屋を基礎より互に分離獨立せる 1 階と 2 階以上、若くは 1 階と屋根の上下 2 體として構成し、上體を裸柱にて支持する構造であつて、地震力を上下 2 體に別々に作用せしめて震力の集中を避け被害を防止軽減せんとするものである (第 10 圖參照)。

第 10 圖



### 乳劑用タール及び同カットバック・タールの製造法

(特許第 108178 號、出願 8-10-9)  
(發明者 前田稔氏外 2 名 特許權者 南滿洲鐵道株式會社)

此の發明は、コールタール又は石油系ピッチにアンラセン油等を、適當量混合せる所謂カットバック・タール類に、頁岩油を蒸溜して得る赤ピッチと稱する赤褐色粘稠性の高沸點油と、同じく頁岩油と生ずる沈澱即ち不飽和化合物の重合生成物との 2 者又は之と少量のマスファルトとを加へて乳化性を附與したる乳劑用タ

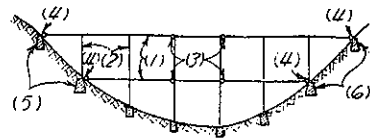
ール及びカットバック・タールを製造する方法であつて、容易に乳化し得。同時に土壤膠着力の大なる前記タールを殆ど廢物に近き物質より安價に得んとするものである。

### 耐震支材

(特許第 108286 號、出願 9-6-29)  
(特許權者 (發明者) 物部長雄氏)

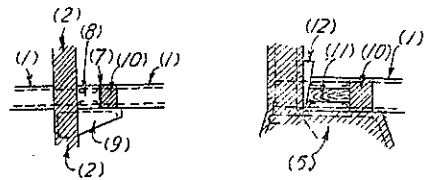
此の發明は、構造物の長さの方向に作用する水平地震力を兩岸に傳達する耐震支材 (1) の適當なる位置に於て、施工後の硬化收縮に因る龜裂間隙を防止する爲、支材の一部 (8) を他の部分の硬化收縮後に於て施工し、且つ耐震支材の適當なる位置に、彈機 (16) を挟み、溫度變化に因る支材の伸縮に對して、支柱又は支壁 (2) 或は其の根部 ((6) に常に適當なる支持力を作用せしめ、以て構造物に作用する水平地震力を支材の壓力又は壓力と地震時岸地盤の安全に耐え得る張力とに依り確實に兩岸地盤に傳達せしめ、地震力に對し、構造物と岸地盤とを安全に耐抗せしめんとするものである (第 11 圖~第 14 圖參照)。

第 11 圖



第 12 圖

第 13 圖



第 14 圖

